

コラボ～白百合女子大学「生涯学習概論」

今回の SWC では、白百合女子大学司書課程とのコラボ企画として、白百合女子大学で「生涯学習概論」（今井担当分）を受講している学生さんを高井さんの講演へ招く試みを行いました。

これはちょうど SLiiiC スタッフの今井が「生涯学習概論」を担当していたこと、同授業の第 12 回目として「学校教育と生涯学習の連携」という内容を設定されていたことをきっかけとして、第 12 回目の授業を SWC の 1 日目参加と振り返る措置を取り実現することが出来ました。

当日学生さんには参加してもらっただけでなく、高井さんの講演へコメントしてもらいようにしました。その結果、下記のコメントが出されていました。会場では出された質問に対して、講師の高井さんからその場で回答してもらいながら双方向のやり取りが行われました。

- ・ 二人のお師匠さんから最も学びたかった部分がありますか。
 - 現状ではありません。今でも二人とは密接なつきあいをしています。未だにリアルタイムで二人の師匠の仕事を見ているからです。
- ・ 逆に図書館から来てもらって本を教えてもらうことができると聞いて、図書館を身近に感じられる良い機会になりました。
- ・ 人に恵まれた環境が整っていることがきちんと働ける条件となるのだなと思いました。
 - 対人面については、奇跡的に良い人に恵まれていて、幸運な人生だと思っています。辛くなったときにも師匠二人が本気で考えてくれたのが大きかったと思います。
- ・ 高井さんがお仕事をしているとき、どういったときにやりがいを感じますか。
 - これというのではないのではと思う。日常の中で仕事をしていて、これだというのが出てしまったら終わりだと考えている。継続すると言うことは意識している。
- ・ 高校の図書館で勤務しているとき、毎月の貸出冊数を超えてやろうと考えていたとの発言がありましたが、どのようなことをやっていたのでしょうか。
 - 公共図書館に勤務しても考えていることだが、「本を借りてね」ということは絶対に言わないようにしている。それは押しつけになってしまうと思っている。その時に、雰囲気を変えようと思った。ここに本があるという形を作り

たかった。立ち止まる瞬間を作れるようにした。自発的に本を借りてもらえる環境を作っていた。

- 司書をしている上で、司書の魅力とは何でしょうか。
 - 本と人を繋げるのもそうであるが、外に出るようになってから、人と人を繋げるとか、人と情報を繋げるというところが魅力的だなと思っています。もしかしたらこれを繋げたことによって、大きなことが起きるのではないかとと思っています。
- 二人の師匠にここは絶対に負けないなと思うところはあるのでしょうか。
 - あえて言えば、自分は学校図書館も公共図書館も知っているというのが自分の強みだと思います。

今回、白百合女子大学では図書館ピアサポーターのLiLiAに所属する学生さんが数多く参加していましたが、それだけでない立場の学生さんも多く参加させることができたことは、何よりの成果だったと思います。受け入れて下さった皆さま、有り難うございました。

(記・今井福司)